

児童発達支援・放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年2月25日

事業所名 きっずはぐ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の工事により部屋に引き戸が付き、利用人数や活動内容によって部屋を広く使ったり区切ったりすることが可能になり、より部屋の使い方の幅が広がった。 学習、体操、音楽等活動内容に合わせて場所や設定を分けて、集中できるよう机の配置などに気を付けて取り組めるように努めている。 	
	2	職員の配置数は適切である	6	0	<ul style="list-style-type: none"> 基準の職員数より多く配置し、より利用者一人ひとりに細やかな支援が提供できるようにしている。 	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> 出入口はスロープになっており、施設内はバリアフリーとなっている。 音楽、体操、心理療法、学習等の活動により部屋を使い分けているが、変更が生じる場合には、わかりやすい空間づくりを心がけている。 児童の活動空間には、活動に必要な物しか置かない事を徹底して行っている。 トイレなど死角となる部屋などはこまめに様子を見たり、洗剤等の危険物は置かない。 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> 空気清浄機、室内空気清浄循環装置、加湿器を設置し、毎日屋内外の清掃と消毒を行っている 机や運動器具等は、1度使用するたびに消毒を行って清潔を保っている。 活動内容に合わせた物の配置、活動によっては刺激になりすぎずおもちゃなど目隠しを設置して活動に集中できる環境を心がけている。 学習机等は体格にあわせて高さを設定し、足置き等を使用して正しい姿勢の保持と学習に集中できる環境を心がけている。 毎日おもちゃや器具等のこまめな消毒を行っている。 活動のさまたげにならないようものの配置にも気を付けている。 	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> 個人での目標設定や振り返りシート(キャリアパスシート)を行うことで気づきもあり、その中での問題等を、日々のミーティングや職員ミーティングでの話し合いにより業務改善をはかっている。 朝礼、終礼、また日々の業務中など気付いた時に速攻意見交換している。 	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施後、保護者の意向をミーティングで共有把握し、スタッフ全員で意見交換しながらより良い業務を目指している。 	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> 評価表の結果を職員間で共有検討し、事業所向け評価表や保護者向け評価表の結果をホームページで公開している。 改善策の話し合いを行い、ホームページに公開して風通しの良い事業所をめざしている。 評価表の結果を受けて保護者会を開き、説明を行っている。 	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	5	<ul style="list-style-type: none"> 第三者による外部評価は行っていないが、理事会により理事による評価を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価の必要性が生じた場合は第三者評価を行う。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて施設内研修を行うとともに、外部の研修へも参加している。 各々の自己研鑽のための外部研修参加も奨励している。 	
適切な支援	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との面談を定期的に行い、発達領域に分けそれぞれの目標を話し合い、利用児の観察などモニタリングしながら計画書を作成している。 	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ポーターズ評価シートや事業所内外での発達検査や知能検査の結果を使用している。 	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からのアセスメントにより、本人の現状や意向をしっかりと検討して支援内容に偏りがないように設定している。 	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援計画をもとに特別支援計画を作成し、支援計画をもとに今何ができるのか、今何が必要かを考えながら日々の活動内容が考えられている。 個人の課題表に沿った内容を支援の場で行っており、成長や小さな気づきを情報交換している。 	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ間で利用児の様子やその子に必要な力や課題等を話し合いながらそれぞれの活動を担当するスタッフが中心となり、一人ひとりにあわせて目標に専門的知識を組み立てて活動内容を考えている。 活動内容についてそれぞれの職員がアイデアを持ちつつほかの職員と相談しながら、ミーティング等で状況など情報交換しながら状況に合わせて変更している。 	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> 目標の達成に向けて様々な内容の課題を行うとともに、アプローチの仕方を変えるなど工夫している。 日々成長がみえる中で、情報交換しながら情報共有し、次にどんなことができるのか意見交換をしながら状況に合わせてプログラムを設定、変更している。 	

児童発達支援・放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年2月25日

事業所名 きっずはぐ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
支援の提供	16	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・休日や長期休みには苦手な分野に時間をかけて取り組んだり、季節のあそびなどを設定し準備を行っている ・様々な経験やサポートができるよう考えている ・学校の宿題を中心に発達にあった課題、促進のための課題を行っている ・課題の内容は、スタッフ間で相談しながら設定し、個々のペース、状況に合わせて確認しながら進めている 	
	17	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの利用児に合わせて、個別で行うもの、また集団生活で学んで欲しいものなど発達に応じて作成している。 	
	18	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードにその日の利用者を一目で分かるよう記し、送迎者や時間等の確認をし、ミーティングで1日の流れや業務内容、利用者の優先する内容等を確認している。 	
	19	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児が降所した後にミーティングを行い、その日の利用児の様子などを話し合っている。またミーティング以外の場でもスタッフ間で支援内容や利用児の様子等について話し合っている ・限られた時間の中で自分自身の振り返りも行い、動きの動線や支援の改善など振り返りを行っている。 	
	20	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・その日どのようなことにどのように取り組んだのか、どのように支援したか等を日々記録して次回に生かすようにしている ・保護者には、日々利用時の支援をノートに記して伝えている。 	
	21	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者が定期的に保護者とのモニタリングが行い、保護者とのモニタリングの前後で、スタッフからのモニタリングも行い見直しの判断をしている。 	
関係機関や保護者との連携	22	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援、創作活動、余暇活動など子ども自身の意欲、興味が持てるようにそれぞれの特性に応じた内容を準備している ・専門的な活動を取り入れたり、偏りなく様々な活動ができるよう考えている ・季節に応じたイベントや工作など様々な活動を行っている 	
	23	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援管理責任者が参加している。 	
	24	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて行っている。 	
	25	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・休日や長期休みには苦手な分野に時間をかけて取り組んだり、季節のあそびなどを設定し準備を行っている ・様々な経験やサポートができるよう考えている ・学校の宿題を中心に発達にあった課題、促進のための課題を行っている ・課題の内容は、スタッフ間で相談しながら設定し、個々のペース、状況に合わせて確認しながら進めている 	
	26	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・現在該当者はいない。 	
	27	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・現在該当者はいない。 	
	28	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて行っている。 	
29	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて行っている。 		
30	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問等で情報交換をして、情報共有と相互理解を図っている ・就学前から利用している利用者が多く、保育所等との情報共有は行っている 		

児童発達支援・放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年2月25日

事業所名 きっずはぐ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	31 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	4	1	・必要に応じて行っている	
	32 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3	・必要な研修を選択して受けている。	
	33 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	0	・当法人主催のイベントにより地域のお子さんや利用児のきょうだい等多くの子と一緒に活動する機会を設けている。	
	34 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	1	4	・行政が参加者を選択するため、希望しても参加は許されない。	
	35 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	・連絡ノートを用いて日々の様子を伝え、保護者からも家庭での様子を伝えていただき情報共有している。また送迎時、口頭でも情報交換している。	
	36 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	6	0	・各家庭によって状況が異なるので、必要に応じて個別に保護者支援を行っている。	・希望があればペアレントトレーニングも行う
保護者への説明責任等	37 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	・契約時に説明し、変更がある時には説明を行っている。	
	38 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	・計画書作成時は保護者に丁寧に説明をして同意を得るとともに、成長、発達の段階に応じて内容を変更する際も保護者にきちんと説明を行い、同意を得ている。	
	39 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	・保護者からの相談があった場合は随時対応している。	
	40 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	0	・保護者会や参観日、イベント等保護者が気軽に話ができる場の提供を行っている。	
	41 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	・子どもや保護者からの相談や申入れに対して時間を問わず迅速丁寧に対応している。	
	42 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	・ホームページにて活動の様子や開催するイベントの案内を公開すると、もに、連絡ノートに情報を記すようにしている。	
	43 個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	・取扱いに十分注意している。日々の業務中、二度三度繰り返し確認している。 ・個人情報のある書類の保管については保管場所等に気をつけて鍵がかかる棚に保管している。 ・個人情報を家族や友人にもらすことがないよう気をはっている。 ・ノート作成の際や配布物は名前をしっかりと確認している。	
	44 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	・利用児に対しては、わかりやすい伝え方を心がけている。保護者へ何かを伝える際には上司に伝える内容や表現の仕方を確認しながら連絡漏れや失礼がないように気を付けている	
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	0	・当法人主催のイベントには利用児だけではなく地域の子ども達へもホームページやチラシでイベントの告知をしている。	

児童発達支援・放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年2月25日

事業所名 きっずはぐ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	46	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルはいつも手の届くところにおいてあり、いつでも目が通せるようになり、職員間でもしもの時の対応を共有している。 ・保護者会の際にマニュアルを閲覧してもらったり普段から目に入りやすい場所に避難場所や経路の地図を提示して確認したりしている。 ・子ども達がパニックにならないように避難訓練を行っている。 	
	47	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所で考えられる災害の避難の仕方、経路、必要な物品の整備など定期的に訓練、確認をしている。 ・持ち出し袋の管理をしている。 ・避難訓練の他、体験施設での訓練等も取り入れている。 	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に保護者から服薬の有無や病歴について聞き取りをしている。また突発の服薬や予防接種については保護者から連絡をいただき共有している。 	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に保護者に確認している。現在該当者はいない。 	
	50	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・作成された事例集に目を通してもしもの時に備え、情報を共有している。またもしもの時がないように日々注意している ・活動中に起きたヒヤリハットを原因分析して職員間で共有している。 	
	51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・外部虐待防止研修を受けた職員を中心に、共通理解を深めるために虐待防止研修を行っている。 	
	52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に保護者に説明し、計画書に記載した上で了解を得ている。やむを得ず拘束、行動を制限する場合は記録に残すようにしている。 	